



## 12・2、患者負担増反対、国民皆保険を守る市民集会

北見医師会理事 小野寺 栄 司  
北海道医報通信員

去る10月19日に厚生労働省が発表した、公的給付範囲の縮小、保険免責制、医療費の総額抑制などを柱とする『医療制度構造改革試案』は財政主導の政策であり、世界に冠たるわが国の国民皆保険制度を崩壊させるものである。そして、国民に著しい負担と犠牲を強いるもので、到底容認できるものではなく、私たちは断固反対しなければならないだろう。

そこで北見医師会・医師連盟が中心となり、北見歯科医師会、北見薬剤師会の3者で、医療問題を政治的、社会的に取り組み協議検討する北見医療協議会が平成17年11月14日に結成された。その協議会で、厚労省の『試案』に反対する市民集会を開催することが決定された。平成17年11月25日、北見身障者団体連合会、北海道難病連北見支部、北見地方腎臓病連絡会、北海道臨床検査技師会北見地区会、オホーツク臨床工学技師会、北見歯科衛生士会、北海道歯科衛生士会オホーツク支部、等の団体の参加を得て、『患者負担増反対、国民皆保険を守る市民集会実行委員会』が結成された。その決起集会が平成17年12月2日、北見市の

芸術文化ホールで約400人の市民の参加を得て盛大に開催された。

集会では道医の藤原秀俊常任理事が『安心して良い医療が受けられるように』と題して厚生労働省の財政一辺倒で、しかも間違った予測値をもとに立てられた計画の誤りを指摘、目先の財政の逼迫を理由にかけがえのない日本の皆保険制度を壊してはならないと訴えた。次いで武部勤（代理）・松木謙公代議士、船橋利実・小谷每彦道議そして神田孝次北見市長のご挨拶をいただいた。最後に来賓の4氏、北見市議会議員6名、および実行委員会のメンバーが壇上に勢ぞろいし、その輪の中心で北見身障者団体連合会の佐々木宏会長が決議文を読み上げ、医師会を中心とした参加団体の意思を表明、参加者の拍手による賛同を得て閉会となった。

古屋聖児実行委員長は『この集会で国の政策を簡単に変更させることは難しいかもしれない、しかし実行委員会を組織する医師会をはじめとする諸団体が団結し反対の意思を表明したということは重要なことである』と語った。



決議文を読み上げる佐々木宏北見身障者団体連合会会長